

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	高齢がん患者に対する緩和医療実践コース（インテンシブコース）						
対象者	がん医療に携わる医師、看護師、薬剤師、その他の職種（心理士等）						
修業年限（期間）	ベーシック（全職種 1日間） アドバンス（医師限定 1か月以上2か月まで）						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢がん患者が抱える問題（治療への忍容性、意思決定能力、合併症、介護者不足等）を理解し、患者・家族が求める支援を行うことができる医療従事者。</li> <li>・他職種と円滑なコミュニケーションが図れ、共同して高齢がん患者・家族に対する支援を行うことができる医療従事者。</li> </ul>						
修了要件・履修方法	・本教育のプログラムをすべて受講すること						
履修科目等	<p>【ベーシック】高齢者に対する薬物療法、褥瘡ケア、リハビリテーション、認知機能障害（認知症・せん妄）、家族ケア、在宅医療などのクルズス、見学および専門チームとのディスカッション</p> <p>【アドバンス（医師のみ・院外からの受講者は別途手続き有）】1. 緩和ケアセンターカンファレンス（初診・終診・クラスターカンファレンス等）にてプレゼンテーションを行い、包括的アセスメントについて学ぶ。2. 緩和ケアチームとして症例を担当し、アプローチの実験を経験する。3. 緩和ケア病棟、在宅緩和ケアを経験することにより、終末期における地域連携の現状について学ぶ。4. 症例検討などディスカッションを通し、各職種の役割を学び、連携を深める。</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	高齢化社会に伴い、高齢がん患者は増加傾向にあり、今後も増加していくことが予想される。一方で高齢がん患者が抱える問題に対する専門的な知識を有する医療従事者は少なく、実際に医療の場ではその対処に苦慮している現状である。本コースでは、多職種の専門家による包括的なクルズスの受講（ベーシックコース）と、実習（アドバンスコース）により、より専門性を高めることができる。						
指導体制	慶應義塾大学病院および連携する緩和ケア病棟等の緩和医療専門医、専門・認定看護師、認定薬剤師が直接指導にあたる。						
教育プログラム・コース修了者のキャリアパス構想	・地域の中核的病院で、がんの集学的チーム医療の一員として、高齢がん患者の苦痛の軽減や生活の質の向上にも視点をおいた医療を提供できる医療従事者を育成する。医師は、就業の要件を満たせば、日本緩和医療学会の緩和医療認定医の申請要件（緩和ケア専従6か月以上）の実習期間とすることができる。						
受入開始時期	平成29年9月以降随時						
受入目標人数	対象者	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	計
	医師	2	3	3	3	3	14
	看護師	2	3	3	3	3	14
	薬剤師	1	2	2	2	2	9
	その他（心理士等）	1	1	1	1	1	5
	計	6	9	9	9	9	42